

平成24年 第4回

京田辺市議会定例会
一般質問通告書

京田辺市議会

平成24年第4回 京田辺市議会定例会 一般質問通告書目次

通告順位	議員名	ページ
1	松村博司	1
2	奥村良太	3
3	櫻井立志	4
4	奥西伊佐男	6
5	上田毅	7
6	南部登志子	8
7	鈴木康夫	10
8	小林喜代司	11
9	塩貝建夫	13
10	河田美穂	14
11	青木綱次郎	15
12	増富理津子	16
13	水野恭子	17
14	次田典子	18
15	岡本茂樹	19
16	岡本亮一	20
17	河本隆志	21

1 巨大地震「南海トラフ」対応の防災計画見直しと、府南部豪雨の教訓を生かした豪雨に対する雨水排水対策について

- (1) 南海トラフ地震の被害想定で、府内も国民の生命や財産、インフラが大打撃を受けるとの予測が公表された。大震災を踏まえ「想定外」を想定すべきと決断されたが防災計画の見直しと本市の取組みについて問う。
- (2) 近年、局地的豪雨が多発している状況から、河川の流水能力の低下が指摘されている。市としての護岸補修整備と治水の安全性向上を図る取組み、更に浸水予防対策をたて、貯留設備や流出抑制装置等による対策は考えているのか問う。
- (3) 避難指示や勧告等について自分たちで避難を判断することも踏まえ、市からの避難情報の伝達方法等を訓練を通じ、情報の入手法など綿密な指導と教育が必要と考えるが、今後の計画は。

2 安定した水道事業を推進する〔水道ビジョン〕の早期策定と下水道事業の公営企業化について

- (1) 大震災に対する水道施設の耐震化、水道管事故に対応するマニュアル策定や関係機関との連携、施設復旧に対する取組みについて問う。
- (2) 本市における水道事業、公共下水道事業、農業集落排水事業の公営企業会計の公平化及び今後の対応について問う。
- (3) 水道事業会計については、収益的収入決算額消費税込みに対し、支出決算額は消費税を除いた収支となっている。また、資本金収入額が資本金的支出額に対して不足する額を減債積立金や当年度分の消費税・地方消費税資本金的収支調整額並び過年度分の損益勘定留保資金において補てんし決算しているが、料金徴収額について十分な調査検討が必要と考えるが市の考えは。

3 幹線道路網等の都市基盤の整備促進について

- (1) 都市幹線道路が昭和54年8月に計画決定されて以来30数年経過している。市道新田辺草内線の田辺高校から近鉄新田辺駅までの歩車分離（歩道の確保）の整備事業の進捗状況と今後の取組みについて問う。
- (2) 本市の中心市街地（近鉄新田辺駅東側）の活性化と都市基盤整備について問う。

4 文化スポーツ施設の改善と複合・総合施設設置整備について

既存の文化スポーツ施設は老朽化が進み大規模な改修、若しくは建替えが必要な時期に来ている。現状施設から判断して総合的な新設の複合施設が必要と考えるが、市長の考えについて問う。

1 既存農道の再整備について

- (1) 早くにほ場整備された農道は狭い。拡幅を望む。
- (2) 農道に陥没や舗装がされているところが目立つ。改善を望む。

2 21世紀抗酸化プロジェクト(S.O.D)について

市役所など学校を含む公共施設において、S.O.Dの取組みなどを取り入れていく考えはないか。

3 京田辺市における経済活性化について

市内経済の起爆剤となるイベント等の開催ができると思うが、市の見解は。

1 「大学のあるまち」を生かした本市のまちづくり施策について

- (1) 「全国大学まちづくり政策フォーラム」が毎年、本市で開催されている。素晴らしい提言があるが、こういった提言を積極的に取り入れ、まちづくりに生かすべきでは。
- (2) 「D - e g g」参加の起業家の育成を支援し、市内定着が図れる優遇措置を実施する制度をつくるべきでは。
- (3) 本市の健康づくりやスポーツ振興に大学の知的資源を積極的に活用し、まちづくり施策に生かすべきでは。保健福祉部と教育部に問う。
- (4) 同志社大学には多くの海外留学生が学んでいる。彼ら留学生との交流を深め、留学生が暮らしやすく、また外国の人たちが本市を訪れやすい環境づくりを図り、広く世界に本市を発信する施策を創出すべきでは。

2 レアメタル等の回収・リサイクルの取組みについて

携帯電話などの使用済み小型家電に含まれるレアメタルなどの回収を進める小型家電リサイクル法が本年8月に成立し、来年平成25年4月に施行されることが決定した。

本市においても回収ボックスを設置するなど、広く使用済み小型家電のリサイクルの普及・促進に取り組むべきでは。市の考えを問う。

3 L E D照明の導入による本市の省エネ化について

- (1) 市役所庁舎をはじめ公共施設へリース方式でのL E D照明の導入を図るべきでは。
- (2) 市内防犯灯のL E D化を進めるべきでは。

4 J R大住駅および周辺環境整備について

- (1) ホーム間をつなぐ跨線橋が設置されているが、高齢者や障がい者にとって階段を登って向かいのホームへ渡るのは困難である。エレベーターの設置をJR側に求めるべきでは。
- (2) 駅のホームは狭く、ラッシュ時は危険である。転落防止柵を設置するようJRに要望すべきでは。
- (3) 駅前横断歩道に押しボタン信号機の設置をすべきでは。
- (4) 駅前駐輪場入り口部分の歩道分離縁石の撤去を。
- (5) 駅前に送迎用仮駐車スペースを設けるべきでは。
- (6) 山手幹線の山手中央から竜王谷橋間に歩行者・自転車レーン設置が進められているが、これを大住駅まで延伸できないか。
- (7) 今後将来的に、駅前開発、区画整理事業計画を進める予定はないか。

1 本市が継続中または計画検討中の各事業等についてそれぞれの進捗状況を問う

- (1) 京都府が寄付を受けた南田辺西地区の土地の有効利用について、その後の庁内検討委員会での検討結果の方向性を尋ねる。
- (2) 三山木地区特定土地地区画整理事業の都市再生整備計画の検証結果について本市の総括は。
- (3) 新名神高速道路の進捗の現状と今後の見通しについて。

2 普賢寺地域の活性化に向けた本市の見解及び今後の取組み施策について問う

近年、本市の中でも普賢寺地域は大部分が山間部を占め、他とは環境の異なる、自然に恵まれた地域であるが、反面多くの分野で解決すべき課題が出てきている現状にある。将来的には地域全体を見据えた施策の実施が重要かつ喫緊の課題と考える。本市としてこの問題をどう受け止め、どのような対策を講じて活性化に取り組もうと考えているのか、第3次総合計画に照らしたその見解を問う。

3 再生可能エネルギー普及に向けた本市の取組み姿勢について問う

再生可能エネルギーの取組みに関しては、近年各自治体で急激に関心が高まり、積極的なそれぞれ環境にあった計画を実施するところが増加している現状にある。本市としても再生可能エネルギーの普及に向けて、前向きに取り組んで行くべきと考えるが、将来のあるべき姿を今後どう考え、どのように取り組もうとしているのか、その見解を問う。

1 京田辺市の犯罪増加について

市内全体の犯罪状況を考え、街灯やカメラ増設等、改善する箇所を見直すべき対策を考えてはいかがか。

引ったくりや性的犯罪が増加している。

市として、現状をどう捉えているのかを問う。

2 中学校の給食問題について

給食制度を1日でも早く開始するため、再々度、委託弁当の導入提案を強く要求する。

市としてどの程度進んでいるのかを問う。

3 入札制度の内容について

公用車の車検に関する入札制度について問題はないのか。

また、入札方法についての内容の見直しをするべきではないかと考える。

4 人口フレーム目標を実現するには細やかな条例制定が必要ではないか

人口フレーム8万人目標を設定するには、きちんとした条例を作るべきであると考えます。

現在、約65,000人の人口であるが、あと約15,000人の人口増幅を考えるに当たり、具体的な場所の設定ビジョンはあるのかを問う。

1 学校教育の課題について

- (1) 普賢寺小学校を卒業する打田・高船地区の子どもたちは、現在、生駒市にある生駒北中学校に通うことになっている。ところが、先日、生駒北中学校と高山小学校の小中一貫教育方針が発表された。今後、生駒北中学校に通うことになるであろう児童・生徒や保護者の間では不安が広がっているが、どのような教育になるのか、本市の子どもたちはどのような対応をすることになるのか。現時点での教育委員会の認識を問う。
- (2) 田辺小学校では、10月から同志社大学に通う留学生の子どもさんが3人通うことになった。言葉や習慣の全く異なる国の子どもたちを受け入れることになり、学校現場は大変であった。今回の経験を踏まえ、外国人の子どもたちを受け入れるに当たっての課題をどう捉えているかを問う。

2 普賢寺地域の課題について

- (1) 市民を巻き込んだ荒廃農地の取組みを求める。
- (2) Uターン・Iターン制度の導入を。

3 健康問題について

- (1) 多様化し、かつ増加するアレルギー患者に対して、市として取組みを。
- (2) HIV、AIDSに対する一層の取組みを求める。
- (3) 難病認定患者に対する治療費免除の大幅な見直しが行われることになったが、その見直しと、本市としての今後の対応について問う。

4 諸課題について

南部 登志子

- (1) 近鉄新田辺駅踏切りの歩行者道部分の改修を求める。
- (2) 主要駅前の植込みや花壇は放置されていることが多く、市の玄関口としても美観を損なっており、ふさわしくないを考える。
定期的な整備が必要と考えるが、市の認識は。
- (3) 隼人舞を府指定無形文化財になるよう働きかけを。

1 より魅力ある自転車ネットワーク基本構想に向けて

京田辺らしい魅力あるネットワーク構築に向け以下の点を問う。

- (1) 目的、基本コンセプトを問う。
- (2) 構想を練るにあたって、有識者、公共交通事業者、環境市民パートナーシップなど外部の意見を聴取されたか。
- (3) ネットワーク形成に伴う事業規模、概要を問う。
- (4) 本市の地理的な宿命、すなわち高低差を克服する工夫、手段はあるか。
例えば、サイクルトレイン、サイクルバス、電動自転車レンタルなど。
- (5) 車社会から、公共交通・自転車へシフトさせていくマインドの部分、いわゆるモビリティ・マネジメントの観点からの策はあるか。
例えば、箕面市が行ったモビリティ・マネジメント施策など。

2 「創造する教育委員会」として、幼稚園経営課題を問う

教育委員会の大きな経営課題である「幼稚園」の園児の減少。国の方針・施策を待つことなく、市独自の「手」を打つ必要があると考える。

- (1) 民間幼稚園と比べて、「保育時間」、「通園バス」、「魅力ある教育メニュー」などの点で課題があると言われているが、その基本認識を問う。
- (2) これらの課題に向けて、対応策の進捗状況を問う。

3 シルバー人材センターの課題解消に向けて

高齢者の雇用、生きがいの創出、そして市民への良質・安価なサービス提供の両面から充実が期待される「シルバー人材センター事業」。

以下の点を問う。

- (1) 耐震性の観点から、危険性が指摘されている事務所移転計画を問う。
- (2) 同時に、かねてから登録者から要望のある作業所の確保の進捗を問う。

1 非常災害時の対策について

(1) 災害時の拠点とも言える市消防署及び北部分署は開設以来大きな整備は実施されていない。

この間、職員数及び消防資機材も非常に増員・増加され、体制・装備とも充実している。非常時の活動に支障のないように防災拠点として庁舎の整備が必要であると思われるが市の考えは。

(2) 震災時に分断された消火栓が使用不能になり、消火活動に支障が生じ、被害が拡大したことは、阪神大震災、東日本大震災でも報告されている。

耐震構造の40t程度の防火水槽の設置を計画的に進める必要があるが市の考えは。

(3) 常備消防の補完機能を担い、重要な任務を負っている本市の消防団の訓練場確保の状況と非常災害時の連絡、指示の通信手段は十分確保されているか。

(4) 「消防団協力事業所表示制度」の導入と今後の見通しについて。

(5) 非常災害時協力井戸の登録状況について。

2 市道新田辺駅前線と市道久保橋田辺線(通称浜新田道)の交差点に信号機設置について

市道新田辺駅前線が開通以来、関係区・自治会を始め、多くの市民の方から強い要望が出ている信号機の設置について、今年度の府民公募型安心安全整備事業に提案されたが交差点の構造上の理由で不採択とされた。

理由を十分検討の上、本市として設置条件を確保して設置に向けて努力する必要があるが市の考えは。

3 普賢寺地域の振興方策について

小林 喜代司

高齢化率も高く、人口が減少している普賢寺地区の振興方策を地元区を始め関係機関と協議を行い、早急に進めていく必要があるが市の考えは。

1 TPP参加問題について

(1) 市長に以下の点について問う。

ア 市にとってTPP参加によるメリットとは何か具体的に説明を。

イ 綴喜医師会はTPP参加反対の意見表明がされた。市内の各経済諸団体の意見聴取を行うべきと考える。

ウ 市長として、TPP参加反対の意見表明を行え。

(2) 農業委員会としては、「TPP交渉に参加しない旨の署名運動」をすでに実施されてきた。この際、委員会として明確な意見表明を関係機関に行うべきと考える。

2 都市農業の振興策について

平成22年3月「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定された。今後の京田辺市のまちづくりに積極的に農業振興策を実施すべきと考える。以下の点について問う。

(1) 京田辺市の特徴を踏まえた振興策についての認識を問う。

(2) 市民のための多様な目的による農地利用の推進について。

ア 農業体験農園（市民農園を含む）

イ 施設園芸等の振興

ウ 農産物販売施設等の整備

エ 遊休農地、荒廃農地解消の取組み

1 自殺予防対策について

- (1) 身近な人の自殺を防ぐための「ゲートキーパー」の育成を進める研修を市民、そして市職員にしてはどうか。
- (2) うつ病などの早期発見を推進するために「こころの体温計」の導入を。

2 ペット等の問題について

- (1) 飼い犬、猫の避妊・去勢手術費用の補助をしてはどうか。
- (2) 野良猫の繁殖防止のため、不妊手術費用の助成をしてはどうか。
- (3) 飼い主のマナー向上のため「わんわんパトロール隊」を結成し、市がタスキやバンダナなどを無償貸与して、啓発活動をしてはどうか。

3 子育て施策について

地方版「子ども子育て会議」を設置すべき。

4 観光施策について

ロケ地に最適な風景(観光名所だけでなく日頃の暮らしの中の風景や街並みなど)を市民から募集して制作会社等へ売り込み、京田辺市を広くアピールしてはどうか。

1 市防災計画の見直し、充実について

- (1) 若狭湾周辺の原発群での事故に備えた対応について
- ア 京田辺市での被害予測について、市の考えを明らかにされたい。
 - イ 全住民避難を含めた計画策定となるよう、国、京都府へ働きかけるよう求める。
 - ウ 全市規模でのヨウ素剤の備蓄に取り組むことを求める。
- (2) 市民公募による検討委員会の設置など、住民参加での防災計画の検討を求める。
- (3) 災害予防の観点からの「まちづくり」について、都市計画の検討も含め全庁あげた取組みの強化を求める。
- (4) 宅地耐震化の推進について、市の見解を明らかにされたい。
- (5) 防災対策の系統性を確保し、体制の強化・充実を。
- ア 消防本部との交流人事の充実を求める。
 - イ 安心まちづくり室の体制強化を求める。

2 中学校給食の実施について

2010年12月議会での請願趣旨採択からの一年間、教育委員会ではまともに中学校給食実施のための検討がなされてこなかったことは重大である。改めて市教育委員会の認識を問うとともに、その責任の所在と、改善された方針を明らかにされたい。

3 市独自の「利子補給制度(中小企業向け融資支援策)」の継続と充実を求める

4 松井ヶ丘幼稚園から大住ふれあいセンター方面へ抜ける遊歩道の整備を

1 誰もが安心して利用できる介護保険と高齢者施策について

- (1) 介護保険料・利用料の減免制度の周知と充実を。
- (2) 介護保険サービスにおける福祉用具購入費の償還払いをやめ、自己負担分のみの受領委任払い制度の導入を。
- (3) 要介護認定の改善を。
- (4) 高齢者のための福祉サービスの拡充を。
- (5) 高齢者の肺炎球菌ワクチン接種の公費助成を。

2 就学援助制度の拡充について

2010年度から支給項目として、新たにクラブ活動費、生徒会費、PTA会費を加える国の補助対象が見直され、今年度から生徒会費、PTA会費について本市でも支給実施されてきた。

- (1) クラブ活動費の実施について進捗状況を問う。
- (2) 就学援助制度の項目の拡充と支給時期の改善を。

3 地域要求

- (1) 近鉄新田辺駅東口に、障害者が安心して乗り降りできる駐停車場の設置を。
- (2) 田辺高校前交差点の安全対策を。

1 「京田辺市子ども憲章」の制定を

いじめや児童虐待など子どもをとりまく環境が深刻化している中で、「子どもの権利条約」に基づいた「子ども憲章」を子どもや市民とともにつくることが、今求められているが市の考えを問う。

2 学校給食こそ「食教育」

学校給食は、自校直営、地元の野菜や製品を利用するなどの方式の給食こそ必要である。民間委託の小学校給食をやめ、中学校給食も自校直営で行うことこそ、食教育である。

市の考えを問う。

3 聴覚障がい者や障がい児への福祉の向上に向け、環境整備を

聴覚障がい者にとって、情報やコミュニケーションの保障が大事である。安心して生活できる環境の整備をすべき。

- (1) 補聴器用電池の購入の補助を。
- (2) 補聴器が必要と認められる身体障害者手帳の交付対象外の難聴児に補聴器購入の補助を。
- (3) 会議や講演会に磁気ループの設置を。

4 JR松井山手駅に障がい者の一時駐車場の設置を

<p>1 原発問題について市長の認識を問う</p>
<p>(1) 12月の選挙後、政権が変わった場合、原発容認の動きがあるが、市長の考え方に変わりはないのか。</p> <p>(2) 福井県の原発が事故を起こした際、市も大きな被害を受ける可能性が高い。市民の命を守る立場から、稼働全面停止を早急に求めるべきだ。</p>
<p>2 教育委員会に問う</p>
<p>(1) 市のいじめ対策ガイドラインの作成経過と内容について。</p> <p>(2) 修学旅行のあり方と広島、長崎における平和学習の必要性について。</p> <p>(3) 各府県に一校の公立夜間中学設立について市教委の考え方はどうか。</p>
<p>3 貧困問題について</p>
<p>(1) 孤立死・孤独死を防ぐための手立てを早急に考えるべきだ。</p> <p>(2) 生活保護基準引下げがもたらす問題点にどのように対応するのか。</p>
<p>4 諸問題</p>
<p>(1) 職員用喫煙室を廃止すべきだ。</p> <p>(2) 黒い新しいクラウン公用車は必要なのか。</p>

1 府道(市道)「富野荘八幡線」の通過交通対策について

- (1) 山手幹線と、府道八幡木津線の関わりによる、富野荘八幡線への迂回車両急増対策は(特に、生活道路や通学路としての安全対策について)。
- (2) 朝夕混雑時の車両交通量調査を実施する考えはないか。
- (3) 新名神の工事用道路であり、将来、市道に編入される予定の側道についてネクスコとの現状での協議経過と概要を説明されたい。
- (4) 富野荘八幡線の交通緩和対策として、この側道を有効に生かす手立ては。

2 「いじめ問題対応ガイドライン」の作成と有効な活用について

- (1) 作成に至った経過について述べられたい。
- (2) 文科省による「いじめ問題緊急実態調査」結果について、その分析結果を説明されたい。
- (3) 今後、ガイドラインをどのように有効に活用するのか。

3 同志社大学との協働の活気あふれるまちづくりについて

- (1) 文系学部の今出川への移転に伴い、京田辺キャンパスに残る学部や大学院の規模、内容を明らかにされたい。
- (2) 現在実施されている同志社大学との連携状況と、協働して行っているまちづくり施策を、具体的に述べられたい。
- (3) 文系学生の移転と、全体規模の縮小の中で、同志社大学や学生との新たな協働のまちづくり対策はないか。

1 子ども施策について

- (1) 本市の子育て支援医療費助成制度では、小学校卒業まで医療費(通院)が無料となっているが、中学校卒業まで拡充すべきと考えるがどうか。
- (2) 南部地域では児童数の増加により、これまで以上に学童保育のニーズがたかまっている。とりわけ三山木小学校では、学級数が1クラスであり、来年度以降の受入れが困難である。学級数を増やすなど、対策を講じるべきと考えるがどうか。

2 南部住民センターについて

- (1) 南部地域の市民活動の活性化や、文化活動などの拠点機能を備えた南部住民センターの建設をすすめるにあたり、公共施設整備等庁内検討会において、検討しているとのことだが、進捗状況を問う。
- (2) 北部住民センター、中部住民センターでは、住民がコミュニティ活動に参加しやすい土日の利用ができる。しかし、地域交流の場となる三山木福祉会館においては、土曜の午後と、日曜日が利用できない。土日においても開館すべきと考えるがどうか。

3 地元要求について

- (1) 同志社山手地域から三山木小学校に登下校する児童は、同志社山手北バス停前の信号機のない山手幹線道路を毎日横断している。
今後、交通量が増えることから、児童が安心して学校に通えるよう早期に信号機の設置をすべきと考えるがどうか。
- (2) 二又交差点では、朝夕の交通量が多くなる時間帯に、右折車両の渋滞ができることがある。右折車両の渋滞が解消されるよう右折専用の矢印信号機を設置すべきと考えるがどうか。

1 超過勤務に対する対応策をどのように行っていくのか、市の見解を問う
2 教育委員会に問う
(1) 幼稚園の入所者数が減少傾向にある中、今後のサービスの充実策を問う。 (2) 学校運営協議会（コミュニティースクール）を実施する考えは。 (3) 社会で働く前に知っておく必要性がある勤労観・職業観を養うための労働教育の充実をはかる考えは。
3 災害に強いまちづくりについて
(1) 耐震シェルターに対する助成施策を講じる考えは。 (2) ゲリラ豪雨等に備えた具体的な治水対策は。
4 JR京田辺駅と近鉄新田辺駅両駅間を通う乗降客等をターゲットにした地域活性化策の具体的策は
5 病児保育の開設に向け整備が進められようとしているが、現在の進捗状況は